

ごみ処理基本計画の進行管理(平成25年度実績)

一般廃棄物(ごみ)処理基本計画

— 未来へつなぐ“循環型都市よこすか”の創造 —

資源循環部 資源循環総務課

平成27年 1月

ごみ処理基本計画の評価指標および実績値・目標値

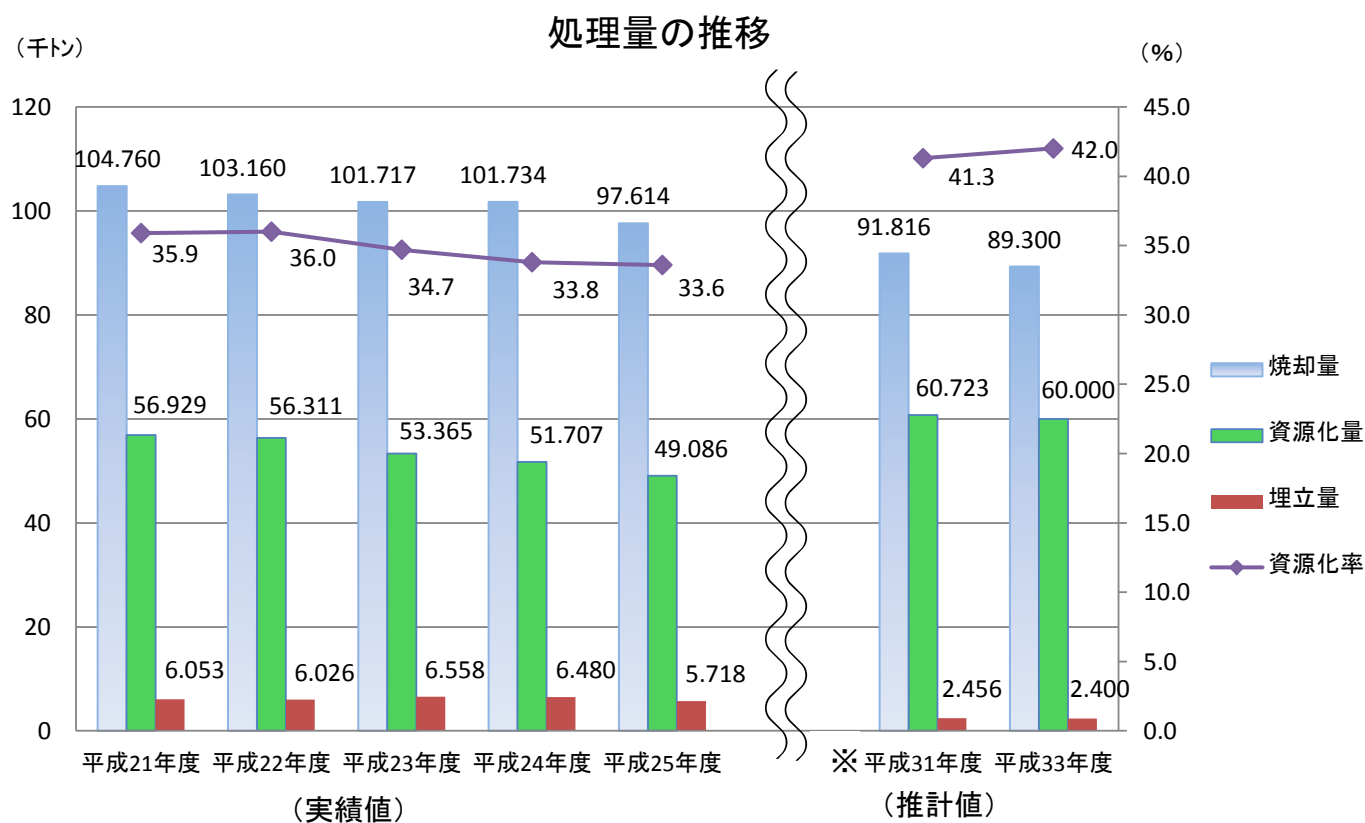
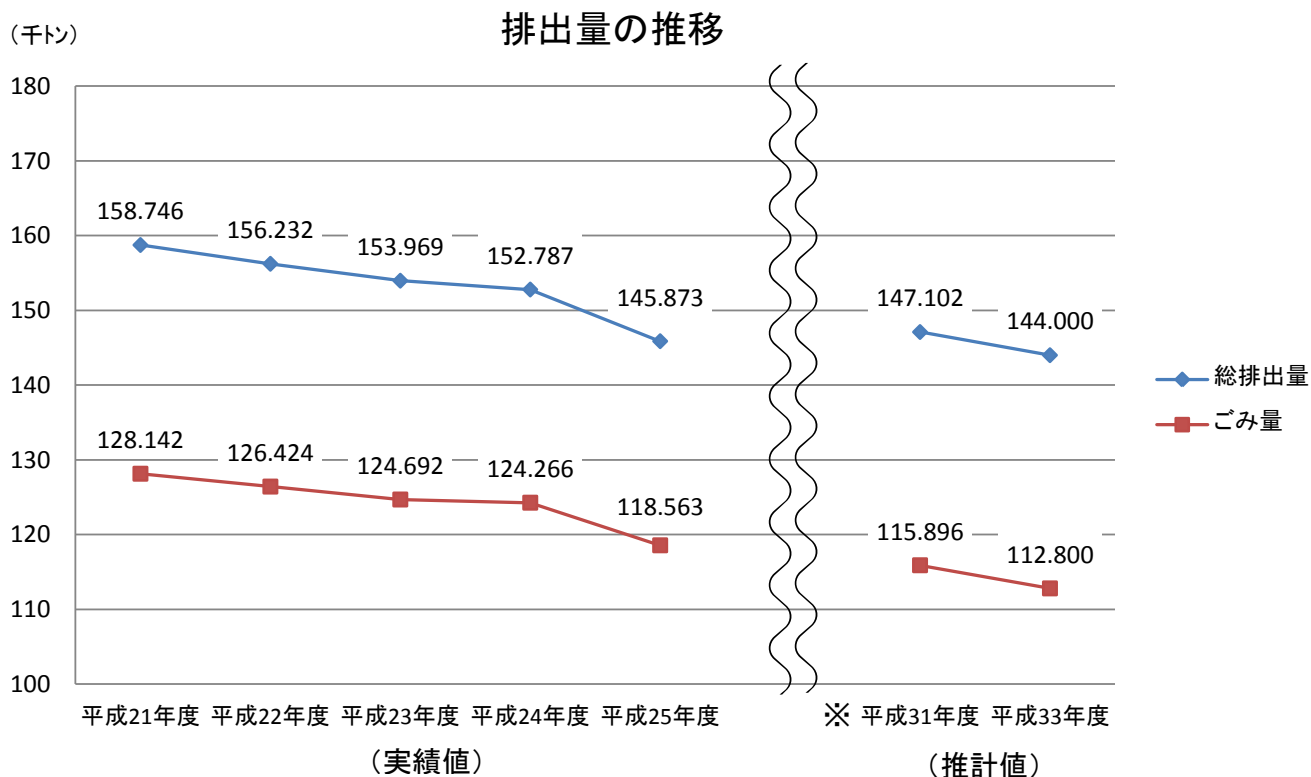
項 目		単 位	平成21年度 (基準年度)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成33年度 (目標年度)	
循環型 社会 形成	排出量	総排出量	t/年	158,746	153,969	152,787	145,873	144,000
		ごみ量	t/年	128,142	124,692	124,266	118,563	112,800
		集団資源回収量	t/年	30,604	29,277	28,521	27,310	31,200
		1人1日排出量 注1)	g/人・日	822	804	800	770	793
		1人1日総排出量 注1) (集団回収を含む)	g/人・日	1,018	992	984	947	1,012
	処理量	焼却量 注2) (焼却率)	t/年 (%)	104,760 (81.8%)	101,717 (81.6%)	101,734 (81.9%)	97,614 (82.3%)	89,300 (79%)
		埋立量 (埋立処分率)	t/年 (%)	6,053 (4.7%)	6,558 (5.3%)	6,480 (5.2%)	5,718 (4.8%)	2,400 (2%)
		資源化量	t/年	56,929	53,365	51,707	49,086	60,000
	資源化率	資源化率	%	35.9%	34.7%	33.8%	33.6%	42%
	経済 性	注3) 処理単価	総処理経費	円/t	48,023 (36,591)	49,443	49,115	49,280
収集経費			円/t	26,589 (23,563)	27,380	26,366	25,593	—
中間処理経費			円/t	23,186 (15,351)	23,671	24,397	23,254	—
最終処分(埋立)経費			円/t	84,959 (54,115)	81,717	77,803	81,565	—
資源化経費			円/t	25,665 (25,665)	26,866	27,988	29,082	—
1人当たり年間処理経費			円/人・年	14,410 (13,602)	14,542	14,504	13,851	—
【参考】	* 住民基本台帳人口 注4) * 将来推計人口	人	427,049 430,331	423,864 425,411	425,343 422,648	421,839 419,678	— 390,106	

注1) 「1人1日排出量」及び集団回収を含む「1人1日総排出量」の実績は、ごみ量及び総排出量を「住民基本台帳人口」で割っているが、平成33年度(目標年度)は「将来推計人口」(横須賀市都市政策研究所にて推計)で割って算出している。

注2) 平成25年度より、三浦市の一般ごみ(可燃ごみ)を受け入れており、三浦市分7,836tを含む焼却量は105,450tになる。

注3) 処理単価について、平成21年度は本市算定方式による単価(かっこ内)を計画書に掲載したが、平成23年度からは神奈川県一般廃棄物処理実績報告の作成基準に基づき算出している。また、東日本大震災の影響により生じた追加的費用は、東京電力損害賠償金および特別交付税分を減額して算出した。(平成23-24年度額も修正)

注4) 住民基本台帳人口は、法改正により24年度から外国人住民を含む。



※ 平成31年度は、新ごみ処理施設の稼働予定年度

ごみ処理基本計画 関連施策・事業等の実施状況

(1) 計画の内容			(2) 取り		
施策種別	取り組み内容	記載頁	平成21年度(基準年度)	平成23年度(計画初年度)	
〔第1章〕基本理念・基本方針 4 重点施策	①ごみ処理広域化計画による施設整備の推進		6		
	②廃プラスチック等の焼却による熱回収	29	ごみ処理広域化に向けての基本的な方向性を示すため、平成21年3月「横須賀市三浦市ごみ処理広域化基本計画」策定	新たなごみ処理施設整備に向けて、平成21年3月に策定した「横須賀市三浦市ごみ処理広域化基本計画」に基づき建設計画を推進	
	③不燃ごみ等からの金属回収	29			
	②継続的な減量化・資源化啓発事業の実施		6		
	①市民・事業者への分別啓発	28	集団資源回収量 30,604トン	集団資源回収量 29,277トン	
	③植木剪定枝等新規資源化策の実施		6		
	④植木剪定枝の資源化	29	—	具体的な検討事項・検討方法をまとめ、他市の実施状況等を調査	
	⑤新たな資源化策の検討	30	—	新規資源化策の進め方をまとめ	
	〔第4章〕ごみの発生・排出抑制のための方策 4 その他、市が講ずべき方策	市が講ずべき主な方策			
		①発生抑制に関する啓発	33	(第4章4(1)に記載)	(第4章4(1)に記載)
②生ごみ等処理機器の購入費補助		33	電気式生ごみ処理機 529基、EM処理容器 52基、コンポスト容器 139基、小枝粉碎機 78基	電気式生ごみ処理機 67基、EM処理容器 8基、コンポスト容器 18基、小枝粉碎機 20基	
③国等への働きかけ(促進施策)		33	デポジット制度導入等について要望	リターナブル容器普及拡大について要望	
市が講ずべき主な方策					
①再生家具の提供		33	228個提供	249個提供	
②国等への働きかけ(促進施策)		33	リターナブル容器普及拡大について要望	リターナブル容器普及拡大について要望	
市が講ずべき主な方策					
①庁舎内等におけるごみの減量化・資源化		34	古紙リサイクル 166,760kg、廃蛍光管 5,360本	古紙リサイクル 179,230kg、廃蛍光管 4,760本	
①グリーン購入の推進		34	対象品目17分野71品目で集計し、15分野34品目で90%以上を達成	対象品目18分野95品目で集計し、14分野42品目で90%以上を達成	
①公共工事等における再生資源等の使用	34				
②国等への働きかけ(促進施策)	34	廃プラスチックのリサイクル制度等について要望	廃プラスチックのリサイクル制度等について要望		
(1) 主な周知・啓発事業					
①ごみ教室の開催、啓発冊子の発行	35	子どもごみ教室24回(1,309人)、啓発冊子5,000部作製	子どもごみ教室20回(999人)、啓発冊子5,000部作製		
②ごみ分別パンフレットや収集カレンダーの発行	35	分別収集カレンダー221,000部作製、パンフレット50,000部増刷	分別収集カレンダー221,000部作製、パンフレット25,000部増刷		
③広報紙やホームページによる周知啓発	35	広報よこすか11回20件、お知らせ版8回15件 HP「ごみデータinよこすか」の更新(毎月)	広報よこすか12回33件、お知らせ版3回6件 HP「ごみデータinよこすか」の更新(毎月)		
④ごみトークやごみ問題学習会の開催	35	ごみトーク36回(1,446人)、ごみ問題学習会6回(125人)	ごみトーク50回(2,135人)、ごみ問題学習会18回(391人)		
⑤アィクルフェアなどイベントの開催	35	アィクルフェアの開催 3回(12,900人)、クリーンよこすか市民のつどい 6月(747人)、中央会議 11月(557人)に実施	アィクルフェアの開催 3回(10,500人)、クリーンよこすか市民のつどい 6月(588人)、中央会議 11月(664人)に実施		
⑥市民協働による啓発活動(クリーンよこすか市民の会、ごみダイエット推進員、アィクル・マイスター)	35	ダイエット推進員研修会11回(244人)、施設見学会9回(117人)、アィクル・マイスター定例会 12回(67人)、施設見学会 1回(5人)、ポイ捨て防止街頭キャンペーン(326人)	ごみダイエット推進員研修会11回(253人)、施設見学会9回(120人)、アィクル・マイスター定例会 12回(44人)、イベント参加4回(14人)、ポイ捨て防止街頭キャンペーン(310人)		
⑦アィクル施設見学による分別排出の周知	35	182団体(11,578人)	137団体(8,663人)		
⑧南処理工場施設見学による適正処理の周知	35	29団体(1,639人)	31団体(1,683人)		

(注) 評価基準 ○:実施している又は実施した。△:一部実施している又は一部実施した。×:実施していない。

組み実績		(3) 評価		
平成24年度	平成25年度			
新たなごみ処理施設整備に向けて、平成21年3月に策定した「横須賀市三浦市ごみ処理広域化基本計画」平成24年度に策定した「横須賀ごみ処理施設整備実施計画」に基づき建設計画を推進	新たなごみ処理施設整備に向けて、平成21年3月に策定した「横須賀市三浦市ごみ処理広域化基本計画」平成24年度に策定した「横須賀ごみ処理施設整備実施計画」に基づき建設計画を推進	○	予定通り実施	熱回収及び金属回収は施設稼働後に行われるものであり、当該施設の建設はスケジュール通り進んでいる。
集団資源回収量 28,521トン	集団資源回収量 27,310トン	○	予定通り実施	分別排出の徹底と資源化の推進を周知啓発しているが、集団資源回収量はごみ排出量全体と同様に減少傾向を示している。
資源化事業者ヒアリングを実施	実施方法別(市による資源化と事業者の自己処分)の課題を整理	○	今後へ向けた調査・検討を実施	新規資源化策は、平成25年4月に施行された小型家電リサイクル法に基づき、使用済小型家電リサイクルを中心に事業化を行った。
使用済小型電子機器等のリサイクル制度について情報収集 廃蛍光管のイベント回収を実施(スタート)	新たに使用済小型家電、インクカートリッジの回収を開始	○		
(第4章4(1)に記載)	(第4章4(1)に記載)	○	予定通り、継続して実施	ごみを出さない生活スタイルを紹介するなど、ごみの発生抑制について啓発を行った。
電気式生ごみ処理機 104基、EM処理容器 15基、コンポスト容器 31基、小枝粉碎機 12基	電気式生ごみ処理機 78基、EM処理容器 20基、コンポスト容器 15基、小枝粉碎機 9基	○	予定通り、継続して実施	各生ごみ等処理機器の購入費補助を継続して実施した。
リターナブル容器普及拡大について要望	リターナブル容器普及拡大について要望	△	予定通り実施	全都清などを通じ、要望を行ったが、未実現。
197個提供	158個提供	○	予定通り、継続して実施	アィクルフェアで提供しているが、再生できる粗大ごみの家具が減少傾向にある。
リターナブル容器普及拡大について要望	リターナブル容器普及拡大について要望	△	予定通り実施	全都清などを通じ、要望を行ったが、未実現。
古紙リサイクル 159,460kg、廃蛍光管 5,026本	古紙リサイクル 176,080kg、廃蛍光管 1,536kg(6,144本)※本数は、1kgあたり4本に換算して算出	○	予定通り、継続して実施	古紙の他、新聞・段ボールを売却するなどの資源化に努めている。
対象品目18分野95品目で集計し、9分野41品目で90%以上を達成	対象品目18分野97品目で集計し、10分野46品目で90%以上を達成	○	予定通り実施	グリーン購入法に基づく「横須賀市グリーン購入調達方針」において、毎年、対象品目や判断基準を見直し、全庁的にグリーン購入の推進に取り組んでいる。
廃プラスチックのリサイクル制度等について要望	焼却灰溶融スラグの利用促進について要望	△	予定通り実施	神都清を通じ、要望を行ったが、未実現。
子どもごみ教室36回(1,680人)、啓発冊子5,000部作製	子どもごみ教室32回(2,156人)、啓発冊子5,000部作製	○		
分別収集カレンダー221,000部作製、パンフレット25,000部増刷	分別収集カレンダー221,000部作製、パンフレット221,000部作製	○		
広報よこすか12回41件 HP「ごみデータinよこすか」の更新(毎月)	広報よこすか12回32件 HP「ごみデータinよこすか」の更新(毎月)	○		
ごみトーク61回(2,426人)、ごみ問題学習会13回(270人)	ごみトーク42回(2,417人)、ごみ問題学習会19回(375人)	○		
アィクルフェアの開催 3回(7,900人)、クリーンよこすか市民のつどい 6月(1121人)、中央会議 11月(622人)に実施	アィクルフェアの開催 3回(8,700人)、クリーンよこすか市民のつどい 6月(584人)、中央会議 11月(616人)に実施	○		
ごみダイエツ推進員研修会11回(210人)、施設見学会3回(52人)、アィクル・マスター定例会 12回(42人)、イベント参加4回(14人)、ポイ捨て防止街頭キャンペーン(305人)	ごみダイエツ推進員研修会10回(247人)、施設見学会9回(124人)、アィクル・マスター定例会 12回(39人)、イベント参加4回(13人)、ポイ捨て防止街頭キャンペーン(344人)	○	予定通り、継続して実施	個々の啓発事業ごとに、減量化・資源化効果を測定できるものではないが、随時必要な周知広報・啓発の結果が、排出量の減、高い資源化率との効果となっていると考える。
129団体(9,310人) うち、小学生のリサイクル学習 45校 3,245人	147団体(9,659人) うち、小学生のリサイクル学習 45校 3,407人	○		
42団体(1,678人)	30団体(1,520人)	○		

(1) 計画の内容			(2) 取り	
施策種別	取り組み内容	記載頁	平成21年度(基準年度)	平成23年度(計画初年度)
	⑨多量排出事業者に対する指導	35	減量化・資源化指導 204件	減量化・資源化指導 213件
	⑩集積所における排出指導	35	市民等への分別排出指導 654件、 ごみ集積所の新設・移設等 302 件、ごみ収納ボックス 360台・カラス 除けネット 2,200枚 配布	市民等への分別排出指導 473件、 ごみ集積所の新設・移設等 334 件、ごみ収納ボックス 446台・カラス 除けネット 2,422枚 配付
4 (2) その他の関連施策 (第4章)	①新たな減量化・資源化策の研究	35	(第1章4③に同じ)	(第1章4③に同じ)
	②リサイクル法の周知・啓発	35	家電4品目拡大・家電指定取引所 の運用変更等について周知・啓発 を実施、容器包装リサイクル法概要を HPに掲載	パンフレット、HP掲載等による周 知・啓発を継続実施
	③家庭ごみの有料化の検討	35	横須賀市の家庭ごみ有料化導入 について案をとりまとめた	家庭ごみの有料化を実施している 全国自治体数の調査
	④新たな減量化・資源化策の研究	35	(第1章4③に同じ)	(第1章4③に同じ)
(第5章) 分別収集区分と資源化・適正処理	1 分別して収集するごみの種類と分別区分			
	ごみの種類・分別区分と排出方法	36	表5-1-1「ごみの種類・分別区分と 排出方法等」に同じ	表5-1-1「ごみの種類・分別区分と 排出方法等」に同じ
	2 (1) 収集・運搬計画			
	①収集区域	37	行政区域内の全域(直営42.7%、 委託57.3%)	行政区域内の全域(直営42.8%、 委託57.2%)
	②分別区分ごとの収集方法・回数	37	表5-2-1「収集方法・回数等」に同じ	表5-2-1「収集方法・回数等」に同 じ
	③収集運搬車両の低公害車使用	38	天然ガス自動車 27台 ハイブリッド車 0台	天然ガス自動車 26台 ハイブリッド車 0台
	④事業系ごみの取り扱い	38	減量化等計画書の提出 201件	減量化等計画書の提出 213件
	2 (2) 中間処理計画			
	①再資源化施設(リサイクルプラザ“アイクル”)	38	搬入量 22,589トン 資源化量 21,861トン	搬入量 21,678トン 資源化量 21,142トン
	②焼却施設(南処理工場)	38-39	搬入量 104,760トン 焼却量 98,735トン	搬入量 101,717トン 焼却量 94,864トン
	③粗大ごみ処理施設	39	搬入量 3,133トン 処理量 3,116トン	搬入量 3,306トン 処理量 3,299トン
	④不燃ごみ減容固化施設	39	搬入量 6,141トン 処理量 6,053トン	搬入量 6,506トン 処理量 6,558トン
	⑤その他民間施設での中間処理・再資源化	39	使用済み乾電池 108トン 集団資源回収品目(プラザ搬入分を 除く) 24,911トン	使用済み乾電池 110トン 集団資源回収品目(プラザ搬入分を 除く) 23,770トン
	⑥今後の予定	39	—	—
	2 (3) 最終処分計画			
	最終処分場	40	埋立量 6,053トン 破砕不適物処理 48トン	埋立量 6,558トン 破砕不適物処理 46トン
	3 ごみ処理施設の整備			
	(1)⑤ 現行の処理施設(長寿命化・延命化対策)	42	・南処理工場:1号炉廃熱ボイラー パス部補修等 ・リサイクルプラザ:自動倉庫計算 機システム更新	・南処理工場:3号炉廃熱ボイラー パス部補修等 ・リサイクルプラザ:自動倉庫コンテ ナー底板溶接補修修繕(30基)等
	(2)①ア) 広域処理施設(焼却施設)	42	横須賀三浦ブロックごみ処理広域化 実施計画策定(県提出)、神奈川県 横須賀・三浦地域循環型社会形 成推進地域計画(国提出、承認)、 建設計画地(長坂地区)を公表し説 明会実施	・ごみ処理施設建設に向けた環境 影響予測評価(環境アセスメント) 実施計画書、施設整備基本計画 の作成や測量、活断層調査等業 務の実施 ・「横須賀市新ごみ処理施設建設 計画対策協議会」と建設計画につ いて協議の実施 ・地元町内会を対象とした説明会 の実施
	(2)①イ) 広域処理施設(不燃ごみ等選別施設)	42		

組み実績		(3) 評価		
平成24年度	平成25年度			
減量化・資源化指導 211件	減量化・資源化指導 201件	○		
市民等への分別排出指導 420件、 ごみ集積所の新設・移設等 254 件、ごみ収納ボックス 499台・カラス 除けネット 2,394枚 配付	市民等への分別排出指導 417件、 ごみ集積所の新設・移設等 253 件、ごみ収納ボックス 494台・カラス 除けネット 2,327枚 配付	○		
(第1章4③に同じ)	(第1章4③に同じ)	○	今後へ向けた 調査・検討を実施	(第1章4③に同じ)
パンフレット、HP掲載等による周 知・啓発を継続実施	パンフレット、HP掲載等による周 知・啓発を継続実施 新たに小型家電リサイクル法につ いて周知した	○	予定通り実施	法・制度改正について、随時情報収集、周知を 行った。
全国自治体の有料化導入状況の 調査、県内で導入を検討している 自治体の情報収集	全国自治体の有料化導入状況の 調査、県内で導入を検討している 自治体の情報収集	△	今後へ向けた 調査・検討を実施	ごみの排出量の傾向及び新処理施設整備から、 当面導入の検討予定はないが、将来的に必要な 性を判断していく。
表5-1-1「ごみの種類・分別区分と 排出方法等」に同じ	新たに使用済小型家電、インク カートリッジの回収を開始	○	予定通り実施	ごみの種類に使用済小型家電、インクカートリ ッジを加えた。
行政区域内の全域(直営37.3%、 委託62.7%) 委託収集区域を13地区から14地 区に拡大	行政区域内の全域(直営37.2%、 委託62.8%)	○	予定通り実施	引き続き、14地区を委託収集区域として定日ご み収集を行った。
表5-2-1「収集方法・回数等」に同 じ	表5-2-1「収集方法・回数等」に同 じ	○	予定通り実施	市民の要望などを踏まえ、適正な収集方法・回 数等を随時検討した。
天然ガス自動車 19台 ハイブリッド車 0台	天然ガス自動車 15台 ハイブリッド車 0台 ディーゼル車(九都県市指定低公 害車) 26台	○	予定通り実施	費用対効果やディーゼル車の環境性能の向上 等を総合的に検討し、H23年度からはクリーン ディーゼル車への更新を進めている。
減量化等計画書の提出 211件 事業系ごみ受入れ規制に向けて 説明会20回実施した。	減量化等計画書の提出 201件	○	予定通り実施	多量排出事業者から、事業系一般廃棄物減量 化等計画書及び実績書を受領し、廃棄物の適正 処理について指導を行った。
搬入量 21,302トン 資源化量 20,836トン	搬入量 20,173トン 資源化量 19,633トン	○	予定通り実施	ごみの種類により若干の増減はあるが、ごみ排 出量は全般的に減少傾向にある。
搬入量 101,734トン 焼却量 96,791トン	搬入量 105,450トン 焼却量 98,385トン	○		
搬入量 3,185トン 処理量 3,084トン	搬入量 3,098トン 処理量 3,013トン	○		
搬入量 6,324トン 処理量 6,480トン	搬入量 5,724トン 処理量 5,718トン	○		
使用済み乾電池 105トン 集団資源回収品目(プラザ搬入分を 除く) 23,079トン	使用済み乾電池 97トン 使用済小型家電 2トン 集団資源回収品目(プラザ搬入分を 除く) 22,046トン	○		
—	—	△	今後へ向けた 調査・検討を実施	広域処理施設整備計画の進捗に沿って、周辺関 連施設・施策を検討した。
埋立量 6,480トン 破碎不適物処理 33トン	埋立量 5,718トン 破碎不適物処理 22トン	○	予定通り実施	平成23年度から不燃ごみ処分委託業者を1社か ら2社に増やしリスク回避を図った。
・南処理工場No.1ごみクレーン補修 等 ・リサイクルプラザ:自動倉庫コンテ ナー底板溶接補修修繕(40基)等	・南処理工場No.2ごみクレーン補修 等 ・リサイクルプラザ 自動倉庫型受 入供給装置コンテナ底板修繕 (22基)	○	予定通り実施	新ごみ処理施設の完成まで、適正処理を確保し つつ、長寿命化・延命化のための補修工事を実施 した。
・ごみ処理施設建設に向けた環境 影響予測評価(環境アセスメント) に伴う環境調査、施設整備実施計 画の作成、新設道路の詳細設計 及び土質調査等業務の実施 ・「横須賀市新ごみ処理施設建設 計画対策協議会」と建設計画につ いて協議の実施 ・町内会等を対象とした説明会の 実施	・ごみ処理施設建設に向けた環境 影響予測評価(環境アセスメント) に伴う環境調査、環境影響予測評 価書案の作成、横須賀ごみ処理 施設建設工事発注仕様書の作 成、および横須賀ごみ処理施設技 術審査委員会による審査等の実 施 ・「横須賀市新ごみ処理施設建設 計画対策協議会」と建設計画につ いて協議の実施 ・町内会等を対象とした説明会の 実施	○	予定通り実施	建設工事の発注仕様書等の作成時の基礎資料 とする施設整備実施計画を作成した。

(注) 評価基準 ○:実施している又は実施した。 △:一部実施している又は一部実施した。 ×:実施していない。

(1) 計画の内容			(2) 取り		
施策種別	取り組み内容	記載頁	平成21年度(基準年度)	平成23年度(計画初年度)	
(第6章) その他ごみ処理に関し必要な事項	1 廃棄物減量等推進審議会の運営				
		廃棄物減量等推進審議会の開催	45	第43回(基本計画改定諮問)、第44回(改定案1・2章審議)、第45回(改定案4章審議)	第51回(新ごみ処理施設整備の検討)、第52回(新ごみ処理施設建設計画、災害廃棄物処理)
	2 市民・事業者・市の協力体制				
		市民・事業者と協働の取り組み	45-46	<ul style="list-style-type: none"> 「レジ袋削減に向けた協定」(H20.10.29~23.3.31)の推進 「クリーンよこすか市民の会」と協働した清掃美化活動 	<ul style="list-style-type: none"> 「神奈川県におけるレジ袋の削減に向けた取組の実践に関する宣言」に賛同(H21.5.12~)し、レジ袋の削減を推進 「クリーンよこすか市民の会」と協働した清掃美化活動
	3 ごみ処理基本計画の進行管理				
		計画の点検・評価・見直し	46	—	—
	4 家庭ごみの有料化				
		家庭ごみ有料化の検討	48	(第4章4(2)③に同じ)	(第4章4(2)③に同じ)
	5 災害時の廃棄物対策				
		災害時の廃棄物対策	49	—	<ul style="list-style-type: none"> 地震等大規模災害時における災害廃棄物の処理等に関する協定(県産廃協) 地震等大規模災害時における災害廃棄物の処理等に関する協定(一廃協、環事協、資源協、横須賀産廃協) 災害時における神奈川県内の市町村の相互応援に関する協定(県、県市長会、県町村会)
	6 その他一般廃棄物関連事項				
		(1) 不法投棄対策の強化	49	<ul style="list-style-type: none"> パネル展開催 9か所、警察との合同パトロールの実施 11回、ポスター掲出、移動式監視カメラ活用 巡回調査等 延べ38,918か所、処理量 101.07トン 	<ul style="list-style-type: none"> パネル展開催10箇所、警察との合同パトロール実施11回、ポスター掲出、移動式監視カメラの活用 巡回調査等 延べ30,543箇所、処理量73.45トン 地デジ化に伴いアナログテレビの不法投棄防止対策として夜間監視パトロールを実施(8日間) ごみ集積所及び不法投棄重点監視地域の夜間監視パトロールの実施 327か所
		(2) ポイ捨て防止及び路上禁煙	49-50	<ul style="list-style-type: none"> 「駅周辺路上喫煙・ポイ捨て防止重点啓発事業」実施(市内21駅、8~2月) 巡回回数 443回 喫煙中止件数 1,920件 	<ul style="list-style-type: none"> ごみゼロ啓発キャンペーン(5月) 年末年始キャンペーン(12月) 巡回回数 247回 喫煙中止件数 744件
		(3) 海岸漂着ごみの円滑処理	50	・(財)かながわ海岸美化財団実施の海浜地清掃 271,192kg(ごみ等回収実績)	・(公財)かながわ海岸美化財団実施の海浜地清掃 212,125kg(ごみ等回収実績)
		(4) 適正処理困難物および排出禁止物	50	受入内規の見直し	受入内規の見直し(排出禁止物の追加品目の検討)
	(5) 廃棄物処理に関する制度改善要望	50	8件(延べ12件)について、県・国に制度改善要望提出	7件(延べ12件)について、県・国に制度改善要望を提出	

計画策定後に新たに生じた事項
<p>(1) 小型家電リサイクル法の施行(平成25年4月1日)に伴い、平成26年1月より使用済小型家電のボックス回収を開始し、レアメタルなど有用金属の国内リサイクルを推進する新規資源化策を実施した。</p> <p>(2) 平成25年4月から、事業系容器包装廃棄物および事業系不燃ごみの受入れを全面的に規制し、事業者自ら行う処理への転換を進めた結果、平成25年度は、リサイクルプラザ 961トン、不燃ごみ減容固化施設 410トンの事業系ごみ搬入量が削減された。</p> <p>(3) 平成25年4月から、南処理工場で広域処理のパートナーである三浦市の一般ごみ(可燃ごみ)の処理を開始した。</p>

組み実績		(3) 評価		
平成24年度	平成25年度			
第53回(新ごみ処理施設建設計画、災害廃棄物処理)	第54回(基本計画進行管理、使用済小型家電・インカートリッジの回収について、横須賀ごみ処理施設の整備)	○	予定通り実施	審議会による審議、計画の進行管理・評価を、今後のごみ処理施策へ反映させていく。
「神奈川県におけるレジ袋の削減に向けた取組の実践に関する宣言」に賛同(H21.5.12～)し、レジ袋の削減を推進 「クリーンよこすか市民の会」と協働した清掃美化活動	「神奈川県におけるレジ袋の削減に向けた取組の実践に関する宣言」に賛同(H21.5.12～)し、レジ袋の削減を推進 「クリーンよこすか市民の会」と協働した清掃美化活動	○	予定通り実施	啓発活動を通じ、減量化・資源化、環境美化の実践につなげていく。
平成23年度実績を基に計画の点検・評価を実施	平成24年度実績を基に計画の点検・評価を実施	○	予定通り実施	前年度実績を基に実施し、計画の見直し時期を検討していく。
(第4章4(2)③に同じ)	(第4章4(2)③に同じ)	△	今後へ向けた調査・検討を実施	(第4章4(2)③に同じ)
・市議会防災体制等整備特別委員会で「横須賀市災害廃棄物等処理計画(案)」の概要説明。 ・横浜市、川崎市、横須賀市、藤沢市、鎌倉市、逗子市、大和市、町田市の8市による「災害時における廃棄物処理等に関する8市連携相互応援協定」の締結に向けての意見交換会に参加。 ・地震など大規模災害時の心がけチラシ配布(23,323枚) ・地震等大規模災害時における仮設トイレの設置等に関する協定(湘南環浄サービス株)	・横須賀市災害廃棄物等処理計画の策定に向けて、素案の見直し及び情報収集 ・横浜市、川崎市、横須賀市、藤沢市、鎌倉市、逗子市、大和市、町田市の8市による「災害時における廃棄物処理等に関する8市連携相互応援協定」の締結に向けての意見交換会に参加	△	予定通り実施	・「横須賀市災害廃棄物等処理計画」は平成26年度中に策定予定。 ・「災害時における廃棄物処理等に関する8市連携相互応援協定」については、引き続き協議を継続していく予定。
・パネル展開催 9カ所、警察との合同パトロールの実施 12回、ポスター掲出、移動式監視カメラ活用 ・巡回調査等 延べ28,190カ所、処理量 81.33トン ・不法投棄防止対策として夜間監視パトロールを実施(1日間) ・ごみ集積所及び不法投棄重点監視地域の夜間監視パトロールの実施 331カ所 ・不法投棄多発地域への環境ポスターの掲出5カ所	・パネル展開催 10カ所、警察との合同パトロールの実施 12回、ポスター掲出、移動式監視カメラ活用 ・巡回調査等 延べ23,751カ所、処理量 77.73トン ・不法投棄防止対策として夜間監視パトロールを実施(1日間) ・不法投棄多発地域への環境ポスターの掲出5カ所	○	予定通り、継続的に実施	不法投棄重点監視地域、夜間監視パトロール及び排出指導を行い、不法投棄の未然防止や不適正な排出状況の改善に努めた。
・ごみゼロ啓発キャンペーン(5月) ・年末年始キャンペーン(12月) ・巡回回数 225回 喫煙中止件数 470件	・ごみゼロ啓発キャンペーン(5月) ・年末年始キャンペーン(12月) ・巡回回数 261回 喫煙中止件数 461件	○	予定通り、継続的に実施	巡回指導では、巡回1回あたりの喫煙者目撃数がH23@3.09人、H24@2.11人、H25@1.70人と減少傾向にある。
・(公財)かながわ海岸美化財団実施の海浜地清掃 178,642kg(ごみ等回収実績)	・(公財)かながわ海岸美化財団実施の海浜地清掃 169,776kg(ごみ等回収実績)	○	予定通り、継続的に実施	美化財団による自然海岸の定期清掃を行った。
受入内規の見直し(事業系不燃ごみの規制)	受入内規の見直し(排出禁止物の追加、削除品目の検討)	○	予定通り実施	排出処理禁止物について、各施設の実態に沿って追加検討した。
8件(延べ11件)について、県・国に制度改善要望を提出	7件(延べ15件)について、県・国に制度改善要望を提出	△	予定通り実施	県市長会、全都清などを通じ、減量化・資源化に係る要望を継続。

(注) 評価基準 ○:実施している又は実施した。 △:一部実施している又は一部実施した。 ×:実施していない。

総合評価
<p>平成23-25年度事業実績から見ると、総体的にはごみの総排出量は予定通り減少推移し、目標値に近づいているが、反面、資源化量が予想以上に減少しているため、結果として資源化率が減少して目標値との乖離が大きくなっている。今後、資源化量と資源化率の見直しを図っていく必要がある。</p> <p>ごみの処理単価については、最終処分(埋立)量の減少により、トン当たりの単価が上昇したことにより、総処理経費を押し上げる形となった。引き続き経費削減の努力が求められる。</p>

◎ ごみ処理実績について

1 排出量

(1) 種類別排出量

単位：トン

区分	年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	25年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
燃せるごみ		101,881	100,068	98,616	98,814	94,751	△ 4,063	△ 4.1%
不燃ごみ		6,141	6,406	6,506	6,324	5,724	△ 600	△ 9.5%
資源ごみ		17,001	16,619	16,285	15,965	15,013	△ 952	△ 6.0%
	缶・びん・ペットボトル	7,588	7,513	7,375	7,260	7,043	△ 217	△ 3.0%
	容器包装プラスチック	9,289	8,984	8,790	8,593	7,861	△ 732	△ 8.5%
	乾電池等	105	108	109	101	102	1	1.0%
	その他	19	14	11	11	7	△ 4	△ 36.4%
粗大ごみ		3,119	3,331	3,285	3,163	3,075	△ 88	△ 2.8%
小計		128,142	126,424	124,692	124,266	118,563	△ 5,703	△ 4.6%
集団資源回収		30,604	29,808	29,277	28,521	27,310	△ 1,211	△ 4.2%
合計		158,746	156,232	153,969	152,787	145,873	△ 6,914	△ 4.5%

(2) 収集等形態別排出量

単位：トン

区分	年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	25年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
定日収集		90,525	89,198	88,021	87,414	85,668	△ 1,746	△ 2.0%
	燃せるごみ	69,902	68,312	67,239	66,835	65,207	△ 1,628	△ 2.4%
	不燃ごみ	5,548	5,753	5,901	5,727	5,570	△ 157	△ 2.7%
	缶・びん・ペットボトル	7,290	7,253	7,134	7,055	7,034	△ 21	△ 0.3%
	容器包装プラスチック	7,785	7,880	7,747	7,797	7,857	60	0.8%
許可収集		26,313	26,202	26,028	26,260	23,029	△ 3,231	△ 12.3%
乾電池等収集		105	108	109	101	102	1	1.0%
粗大ごみ等収集		1,229	1,310	1,255	1,216	1,204	△ 12	△ 1.0%
臨時収集		997	945	908	887	845	△ 42	△ 4.7%
直接搬入		8,973	8,661	8,371	8,388	7,715	△ 673	△ 8.0%
小計		128,142	126,424	124,692	124,266	118,563	△ 5,703	△ 4.6%
集団資源回収		30,604	29,808	29,277	28,521	27,310	△ 1,211	△ 4.2%
合計		158,746	156,232	153,969	152,787	145,873	△ 6,914	△ 4.5%

(3) 他市受入れ量

単位：トン

区分	年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	25年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
三浦市 燃せるごみ		-	-	-	-	7,836	7,836	100.0%

2 処分量（処理施設搬入量）

単位：トン

区分	年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	25年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
焼却施設		104,760	103,160	101,717	101,734	105,450	3,716	3.7%
減容固化施設		6,141	6,406	6,506	6,324	5,724	△ 600	△ 9.5%
資源化施設		22,589	22,097	21,678	21,302	20,173	△ 1,129	△ 5.3%
粗大処理施設		3,133	3,348	3,306	3,185	3,098	△ 87	△ 2.7%
直接資源化		25,016	24,330	23,884	23,184	22,150	△ 1,034	△ 4.5%
合計		161,639	159,341	157,091	155,729	156,595	866	0.6%

注) 資源化施設処分量には、リサイクルプラザに搬入される集団資源回収（段ボール、紙パック、その他の紙）を含む。

3 資源化量

単位：トン

区分	年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	25年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
リサイクルプラザ		21,861	21,478	21,142	20,836	19,633	△ 1,203	△ 5.8%
集団資源回収		24,899	24,215	23,770	23,079	22,046	△ 1,033	△ 4.5%
焼却灰スラグ化ほか		9,815	10,280	8,133	7,493	7,114	△ 379	△ 5.1%
粗大金属ほか		354	338	320	299	293	△ 6	△ 2.0%
合計		56,929	56,311	53,365	51,707	49,086	△ 2,621	△ 5.1%

注) 集団資源回収のうち段ボール、紙パック、その他の紙はプラザの資源化を含む。

4 資源化率

区分	年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	25年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
資源化率		35.9%	36.0%	34.7%	33.8%	33.6%	△ 0.2%	
県内平均資源化率		24.5%	24.5%	24.7%	24.8%	-	-	
全国平均資源化率		20.5%	20.8%	20.4%	20.4%	-	-	

注) 資源化率 (%) = 【資源化量】 ÷ 【排出量合計(集団資源回収量を含む)】 × 100

5 1人1日排出量

単位：グラム

区分	年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	25年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
集団回収を除く		822	814	804	809	-	-	
(外国人住民を含む排出量)		-	-	-	800	770	△ 30	△ 3.8%
集団回収を含む		1,018	1,005	992	995	-	-	
(外国人住民を含む排出量)		-	-	-	984	947	△ 37	△ 3.8%

【参考】

区分	年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
人口（日本人）（人）		427,049	425,730	423,864	420,811	-
外国人住民を含む人口（人）		-	-	-	425,343	421,839
世帯数（世帯）		184,897	185,829	186,430	188,733	188,822

注) 人口及び世帯数は10月1日現在の住民基本台帳による。法改正により24年度から外国人住民を含む。

◎ 生活系ごみについて

1 排出量

単位：トン

区分	年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	25年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
可燃ごみ		69,972	68,328	67,246	66,848	65,241	△ 1,607	△ 2.4%
不燃ごみ		5,554	5,754	5,902	5,730	5,571	△ 159	△ 2.8%
資源ごみ		15,192	15,248	14,995	14,957	14,995	38	0.3%
粗大ごみ		3,014	3,237	3,193	3,070	3,003	△ 67	△ 2.2%
小計		93,732	92,567	91,336	90,605	88,810	△ 1,795	△ 2.0%
集団回収量		30,604	29,808	29,277	28,521	27,310	△ 1,211	△ 4.2%
合計		124,336	122,375	120,613	119,126	116,120	△ 3,006	△ 2.5%

注) 区分と排出量は、神奈川県一般廃棄物処理実績報告及び環境省一般廃棄物処理事業実態調査の定義に基づく。概ね、定日収集、粗大ごみ（収集・直接搬入）、乾電池等収集、集団資源回収の合計。

2 1人1日排出量

単位：グラム

区分	年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	25年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
集団回収を含む		798	788	777	776	-	-	-
(外国人住民を含む排出量)		-	-	-	767	754	△ 13	△ 1.7%

県内19市の資源化率と原単位(1人1日排出量)

『神奈川県一般廃棄物処理事業の概要』を基に作成

平成23年度 (2011年度)			平成24年度 (2012年度)			
資源化率	原単位	集団回収を含む原単位	資源化率	原単位	集団回収を含む原単位	
1. 鎌倉 47.7%	1. 座間 715g	1. 座間 740g	1. 鎌倉 48.1%	1. 座間 710g	1. 座間 734g	
2. 海老名 34.9%	2. 藤沢 725g	2. 綾瀬 806g	2. 三浦 45.5%	2. 藤沢 748g	2. 綾瀬 804g	
3. 横須賀 34.7%	3. 平塚 773g	3. 秦野 840g	3. 海老名 34.0%	3. 横浜 769g	3. 海老名 836g	
4. 三浦 33.2%	4. 横浜 781g	4. 海老名 846g	4. 横須賀 33.9%	4. 平塚 782g	4. 大和 851g	
5. 藤沢 32.0%	5. 伊勢原 783g	5. 大和 858g	5. 藤沢 30.6%	5. 伊勢原 788g	5. 秦野 852g	
6. 座間 30.9%	6. 綾瀬 806g	6. 藤沢 882g	6. 座間 30.3%	6. 逗子 797g	6. 茅ヶ崎 858g	
7. 綾瀬 30.8%	7. 横須賀 818g	7. 茅ヶ崎 883g	7. 綾瀬 30.0%	7. 綾瀬 804g	7. 伊勢原 898g	
8. 南足柄 26.3%	8. 秦野 826g	8. 伊勢原 896g	8. 逗子 28.0%	8. 横須賀 824g	8. 相模原 904g	
9. 小田原 25.6%	9. 海老名 846g	9. 相模原 912g	9. 厚木 25.6%	9. 川崎 826g	9. 藤沢 906g	
9. 横浜 25.6%	9. 川崎 846g	10. 平塚 917g	10. 横浜 25.4%	10. 海老名 836g	10. 逗子 910g	
11. 逗子 25.5%	11. 逗子 855g	11. 横浜 921g	11. 南足柄 25.0%	11. 秦野 837g	11. 横浜 913g	
12. 厚木 24.8%	12. 大和 858g	12. 川崎 939g	12. 小田原 24.8%	12. 大和 851g	12. 川崎 917g	
13. 秦野 22.6%	13. 茅ヶ崎 883g	13. 厚木 941g	13. 秦野 22.3%	13. 茅ヶ崎 858g	13. 平塚 923g	
14. 平塚 21.7%	14. 相模原 890g	14. 南足柄 950g	14. 茅ヶ崎 22.0%	14. 相模原 882g	14. 南足柄 946g	
15. 大和 21.3%	15. 厚木 941g	15. 逗子 973g	15. 大和 21.3%	15. 南足柄 946g	15. 厚木 962g	
16. 伊勢原 21.0%	16. 南足柄 950g	16. 横須賀 1,011g	16. 平塚 20.9%	16. 厚木 962g	16. 横須賀 1,013g	
17. 相模原 20.0%	17. 小田原 1,048g	17. 小田原 1,048g	16. 伊勢原 20.9%	17. 三浦 1,007g	17. 小田原 1,043g	
18. 茅ヶ崎 18.0%	18. 三浦 1,050g	18. 鎌倉 1,082g	18. 相模原 20.4%	18. 小田原 1,043g	18. 三浦 1,047g	
19. 川崎 17.4%	19. 鎌倉 1,082g	19. 三浦 1,091g	19. 川崎 17.6%	19. 鎌倉 1,062g	19. 鎌倉 1,062g	
19市平均	24.8%	824g	924g	24.8%	816g	916g
県内平均	24.7%	833g	930g	24.8%	825g	923g
全国数値	20.4%	919g	976g	20.4%	922g	963g

注) 神奈川県一般廃棄物処理実績報告の原単位は、「推計人口」を用いているため、本市のごみ処理実績の1人1日排出量(10ページ)と一致しない。また、資源化率も算定方法の違いにより、本市のごみ処理実績と一致しない。

平成 25 年度ごみ排出量及び資源化量の生活系・事業系内訳

ごみの種類	排出量 (トン)			資源物	資源化量 (トン)		資源化率	
					生活系	事業系		
燃せるごみ	94,751	生活系	65,241	»	焼却灰 (熔融スラグ)	4,959	2,155	4.88 %
		事業系	29,510					
粗大ごみ	3,075	生活系	3,003	»	粗大金属	122	3	0.09 %
		事業系	72		金属チップ	63	1	0.04 %
缶・びん・ペットボトル	7,043	生活系	7,034	»	家具	3		0.00 %
					スチール缶	790	1	0.54 %
					アルミ缶	755	1	0.52 %
		びん(無色、茶色、その他の色)	2,116		3	1.45 %		
		ペットボトル	1,585		2	1.09 %		
容器包装プラスチック	7,861	生活系	7,857	»	容器包装プラスチック	7,856	4	5.39 %
		事業系	4					
段ボール、紙パック、その他の紙	5,269	生活系	5,264	»	段ボール	3,654	4	2.50 %
					紙パック	98		0.07 %
		事業系	5		その他の紙	1,492	1	1.02 %
乾電池、小型家電	102	生活系	102	»	乾電池	97		0.07 %
		事業系	0		小型家電	2		0.00 %
新聞、雑誌、古着類、その他金属	22,048	生活系	22,048	»	新聞、雑誌、古着類・その他金属	22,048	0	15.11 %
		事業系	0					
不燃ごみ	5,724	生活系	5,571					
		事業系	153					
合計	145,873	生活系	116,120		合計	46,910	2,176	33.6%
		事業系	29,753			32.1 %	1.5 %	

* 生活系・事業系の資源化量は、国・県への実績報告における生活系・事業系ごみ排出量から算出した参考値。

* 「生活系ごみ」は家庭から排出されたごみで、「事業系ごみ」は事業活動に伴い発生した事業系一般廃棄物。

* 平成 25 年度 資源化率は、 $(46,910 + 2,176) \div 145,873 \times 100 = 33.6\%$

* そのうち、生活系ごみに由来する分は 32.1%、事業系ごみに由来する分が 1.5%となっている。

循環資源の再資源化の主な内容 (平成25年度実績)

